

視線

神か幻か 異能の表現者たちの世界



小田隆 「篠山層群産動物の生態環境復元画」2014年
丹波市立丹波化石工房 ©小田隆/中蔵市
ジョン・バーティン 「イグアナトンの国」1837年
ニューヨーク国立博物館蔵。ババ・トシカレワ・サエ
リントン Gift of Mrs. Mantell-Hardinge, 1861. The British Museum, London (1992-0006-1794)

絵画×科学 恐竜の

アトキンによる「イグアナトンの国」(1837年)。荒涼かつ神秘的な風景に、争い絡み合う3体の生物が描かれている。イグアナトンの化石を発掘した地質学者に依頼されて描いたのだという。本展は兵庫県立美術館で3月に始まった。当時同館の学芸員で、現在は神戸芸術科大学教授の岡本弘毅さんが本展を企画する契機となったのが、アトキンと、恐竜画について「ロマン主義の画家アトキンも描いているくらいなのだ」と語る。

野逸勢、葛鉄五郎、古賀春江に交わり、著名では言いたくない画家たちの作品が並ぶ。高橋忠彌「水汲み」(1918年)は、人々の姿が泉の水面に映り、背後に半獣神のいる光の神の夢「幻視の表現者」展の会場で、何度もおどろきそうに訪れた。紹介される機会が少ない異能の表現者たちとの出会いがいくつもあるからだ。時代や地域を超え、霊的なものを感ずる手や、幻を見るまっとうな芸術家など。表現者を集める」という企画自体が特異。しかも冒頭は霊媒気質のある宗教者たちの書や絵画で、刺戟的といっはかない。続く「幻視の画家たち」の章では、村山梅多や関根正三河



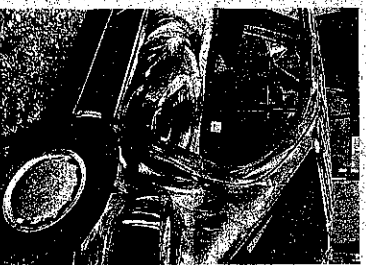
三輪田俊助「風景」(1937年、町立久米美術館蔵)



三宅一樹「三サノオ」(2014年、作家蔵)

らはこの異形の表現が纏うねば自らの王国や世界を作り出す神のような表現者たち。系統たっただ美術史とは異なる物差しで逸脱者たちを救い出し、近代を逆照射する。価値ある企画だ。(編集委員・大西哲人) 最終「越境者たち」には岡本太郎や草間彌生、横尾忠則といった現代の多才1の作品が並ぶ。媛貞久方高原町、愛知県碧南市に巡回。

強烈な 光の記憶 写真家・森山大道作品集



「Hysteric no.4 1993」(1993年) 森山大道写真財団蔵

ページをめぐる度、強烈な光の粒が網膜に突き刺さる……。写真家・森山大道(84)の作品を多数収めた「森山大道 光の記憶」(求龍堂)にはそんな感覚がある。島根県立美術館で開催中の同名の大個展(28日まで)の図録を兼ねて刊行された。陰影の深い約400点から、その歩みは写真の解体と再構築の反復運動だと分かる。出世作の写真集「1000ぼん劇場写真帖」(1968年)も、大衆演劇と胎児のホルマリオン濃度といった無関係な表現を組み合わせた。アトキン、アトキン、ボケの時代から、被写体すら判断としない表現などで写真の極北を目指した「写真よささよう

なから」(72年)に至る。その後は国内外でレクチャーが握えるすべての光を「世界の断片」として撮り、速写なのに抜群の構図を見せる。菅谷典子・同館主任学芸員の評伝的文章が理解を助けてくれる。(大西哲人)

■ご意見は、〒104・8011 (住所不要) 朝日新聞東京本社 文化部・美術担当 (フネクス03・5541・8611)へ。

驚くほど腰がラク! ミズノ製「腰」動きやすい! 着けている

「5分間」で動かない腰は、おスライム骨盤固定帯

Mizuno 日本製

腰量 約136g (M-L)

これを改良スル。腰部骨盤に不安をかかえ生活で着用でき